

特定非営利活動法人 ワネッツ

活 動 報 告 書

第 6 期

(2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日)

2023 年 5 月 28 日

強制余白

1. 活動の目的

1-1. 決意

特定非営利活動法人ワネッツ（以下「ワネッツ」という。）は、以下の決意のもと 2017 年 4 月 6 日に設立した。

なお、2022 年 12 月、ワネッツは NPO 法に定める認定 NPO 法人格を取得した。

私達は、嶺南地方を中心に、この地域の人口構成上の中核となる高齢者によって、イノベーション（従来のモデルを改革して社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動）を進めるために、特定非営利活動法人を設立する。

また、この法人が管理運営する「地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR：ニーター）」は、緊急時において不公平感のない中立的な組織として、行政のみならず自主防災組織などの住民自主活動も支援する。これは、この地域の災害の復元力（レジリエンス）の向上にも大きく寄与するものであると信ずる。

さらに私達は、この法人に組織管理手法（**マネジメントシステム**）を取り入れ、常に継続的改善、自己改革ができる組織をつくり、「**原子力発電所がある地域は元気な地域**」と呼ばれるようになることを目指し、この実現のため「**終わりになき挑戦**」をする覚悟である。

1-2. 目的

この決意のもと、ワネッツの定款において法人の目的を設定した。

この法人は、地域住民、地方公共団体および原子力事業者等に対して、原子力緊急時における防護対策および災害応急対策ならびにこれらの準備に関する支援等を行い、地域の防災・減災力の向上に寄与することを目的とする。

この定款の目的を、2019 年 9 月、以下のように改定した。

この法人は、地域住民および関連組織との間で原子力緊急時に関する**リスクコミュニケーション**を実施することで、地域に備える防災力の向上ならびに緊急時となった場合の減災力の向上に寄与することを目的とする。

1-3. 事業

この目的を達成するため、特定非営利活動促進法で定める災害救援活動および地域安全活動の領域で、以下の 5 つの非営利事業を実施することとした。

- (1) 地域住民のための原子力緊急時援助隊運営事業（以下、「NEATR 運営事業」という。）
- (2) 地域住民のための原子力緊急時援助隊隊員等研修事業（以下、「NEATR 隊員等研修事業」という。）
- (3) 緊急時ツール開発管理事業
- (4) 原子力および放射線緊急時知識普及事業
- (5) 関連付随事業

2. 2022 年度の活動の成果

2-1 特定非営利活動事業における成果

ワネッツの 2022 年度（第 6 期）の活動については、第 7 回通常総会(2022 年 6 月 27 日、テレワーク(テレビ会議)方式)の議決を踏まえ、リスクコミュニケーションの技術を用いて、地方公共団体

および関係ステークホルダーとの連携をはかるなどして、以下の項目を重点的に実施した。詳細は添付資料の活動報告資料に記す。

- ・ 2022 年 11 月 5 日、6 日の両日、国、福井県、美浜町等が主催する令和 4 年度原子力総合防災訓練に参画し、全体として非公開の部分が多い中、短期間集中的に福井県および美浜町との事前調整を行い、広域避難所支援および屋内退避支援の地元住民を交えた研修を行った。
- ・ 2022 年 5 月 27 日、福井県国際交流センターのご支援を得て、実際の災害時において在留外国人の支援の受け入れが可能かどうかを探るため、災害時外国人支援実働研修を行った。
- ・ 2022 年 9 月 12 日および 12 月 27 日、同年 2 月 24 日に発生したウクライナ戦争に関し、ウクライナ支援を行っている災害時実働団体に寄付をする事業を行うとともに、年度を通じて NEATR 戦略本部の運営に資するものを見出すため、戦略本部運営技術開発を行った。
- ・ 2023 年 3 月 25 日、毎年恒例の 3 1 1 特別企画事業として、現職との対話、美浜発電所構内見学、美浜発電所長のご講演、原子力シニアネットワークの会員のご講演を企画実施した。

2-2. その他事業（収益事業）における成果

収益事業は実施していない。

2-3 運営における成果

2022 年 9 月に、それまで得ていた特例認定 NPO 法人格を、認定 NPO 法人格に引き上げるための申請を行い、厳しい書類審査および現地検査を経て、2022 年 12 月 13 日に、同法人格を福井県知事よりいただいた。これは福井県では 5 番目、嶺南地区では初の快挙である。

ワネッツの運営は、定款に定める事業が成立し、かつ継続的な改善が可能となるよう、以下の活動を実施し、それぞれ、前第 2-1 項に示した成果に寄与させることができた。また、昨年に引き続き 2022 年度の補助金申請 1 件（福井県わくわくチャレンジ）を行ったが採用とはならなかった。これによりワネッツ発足以来、10 件申請で補助金獲得は 2 件、採用率 20%となった。

- ・ 月次会計報告書でのキャッシュフロー分析および事業費明細の表示
- ・ 福井県等主催のボランティア研修会への積極参加
- ・ ワネッツの正会員および賛助会員の獲得
- ・ NEATR 隊員の獲得
- ・ 継続的な寄付募集
- ・ コマンドシステムの導入、定着
- ・ ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

3. 事業の実施に関する事項

2-1 特定非営利活動における事業

前 1-3 項に基づく事業を、役員会で個別の事業を設定し、その後個別事業の実施計画を承認するというステップで、各年度 10 件程度を目安に実施してきている。

【各年度事業実施件数】

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
個別事業件数	9	9	8	8	8
内継続事業件数	0	0	1	0	3

2022 年度は、過去最大の 10 件の事業を設定し実施した。なお、内 1 件は 2021 年度から継続したものである。

区分	事業名	実施日	内部/外部参加者	実施場所/実施内容
(1)NEATR 運営事業	2022 年度コマンドシステム演習事業	2022 年 11 月 4 日、5 日	23 名/95 名	美浜町はあとびあ、大飯中学校体育館、美浜町佐田地区
(2)NEATR 隊員等研修事業	災害時外国人支援事業	2022 年 5 月 28 日	4 名/9 名	小浜市食文化館
	戦略本部運営演習事業	2022 年 8 月 21 日、25～26 日	18 名/8 名	敦賀市あいあいプラザ
	3 1 1 特別企画事業	2023 年 3 月 25 日	9 名/4 名	関西電力美浜 PR センター 関西電力美浜発電所構内
(3)緊急時ツール開発管理事業	NEATR 戦略本部技術開発事業(継続)	2022 年 2 月～2023 年 3 月	10 名/0	ワネッツ小浜事務所 自宅等
(4)原子力および放射線緊急時知識普及事業	2021 年度若狭湾工ネ研受託研修事業	2022 年 12 月～2023 年 1 月	4 名/10 名	ワネッツ小浜事務所 若狭湾工ネ研
	防災基礎研修事業	2022 年 6 月～7 月	24 名/120 名	敦賀オフィスセンター、サード・ビル 能登町あい文センター、石川県立研修センター
	放射線空気壁打破事業(継続)	2021 年 6 月～(継続)	14 名/20 名	ワネッツ小浜事務所 福井県国際交流センター 他
	アウトリーチワークショップ	2022 年 6 月～(継続)	10 名/0	ワネッツ小浜事務所 各役員自宅
(5)関連付随事業	災害時実働団体支援事業(ウクライナ支援)	2022 年 5 月～12 月	23 名—	敦賀市あいあいプラザ、美浜町はあとびあ、大飯中学校体育館、ワネッツ小浜事務所

2-2 その他事業（収益事業）

収益事業は実施しなかった。

2-3 理事会および総会

(1)定款に基づく理事会および総会を以下のとおり実施した。

区分	年月日	場所・方式	出席	議事状況
理事会	2022 年 6 月 1 日	テレワーク方式	出席 8 名 欠席 0 名	2022 年度活動計画について 役員改選について 他
総会	2022 年 6 月 26 日	テレワーク方式	出席 25 名 欠席 13 名	2022 年度活動計画について 役員改選について 他

(2)ワネッツ役員会規定に基づく役員会を以下のとおり実施した。

回	年月日	場所・方式	出席	議事状況
2021 年度 第 4 回	2022 年 5 月 31 日	テレワーク方式	出席 9 名 欠席 1 名	第 5 期決算について 第 6 回ワネッツ定期総会について 他
2021 年度 第 5 回	2022 年 6 月 1 日	テレワーク方式	出席 9 名 欠席 1 名	戦略本部実働演習の実施 防災基礎研修事業の実施
第 1 回	2022 年 6 月 26 日	テレワーク方式	出席 9 名 欠席 1 名	2022 年度執行体制について 福井県知事宛報告書の提出について

第2回	2022年 8月11日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	戦略本部実働演習実施計画 アウトリーチワークショップ 他
第3回	2022年 9月4日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	ウクライナ支援の実施 認定 NPO 法人申請
第4回	2022年 10月16日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	レクビデオの作成 コマンドシステム演習の実施
第5回	2022年 10月23日	テレワーク 方式	出席8名 欠席2名	MS6 広域避難所支援実施計画 MS8 屋内退避支援実施計画 他
第6回	2022年 11月29日	テレワーク 方式	出席7名 欠席3名	アウトリーチワークショップ計画 放射線防護ビデオ作成 他
第7回	2022年 12月25日	テレワーク 方式	出席8名 欠席2名	「お困りごとお聞きします」の結果 ウクライナ支援の支援先 他
第8回	2023年 1月22日	テレワーク 方式	出席7名 欠席3名	若狭エネ研修実施計画 3 1 1 特別企画事業の実施 他
第9回	2023年 2月19日	テレワーク 方式	出席7名 欠席3名	3 1 1 特別企画事業の実施(修正) NEATR 定期総会の実施 他
第10回	2023年 3月23日	テレワーク 方式	出席7名 欠席3名	3 1 1 特別企画事業実施計画 原安協との協定の締結 他

(3)監査については以下のとおり実施した。なお、それぞれの監査報告書は 2021 年度決算報告書に
掲示した。

回	年月日	場所・方式	出席	議事状況
第1回	2022年 5月10日	テレワーク 方式	監事2名 理事1名	2021 年度決算監査

2-4 運営に関する事項

(1)重要な規定の制改定および契約の締結

特になし。なお、現状の重要な規定および契約は以下のとおり。

- ・ 特定非営利活動法人ワネッツ定款（最終改定 2018 年 7 月 3 日）
- ・ WANETS 規定第 1 号 NPO 法人ワネッツ役員会規定(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第 2 号 NPO 法人ワネッツプライバシーポリシー(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第 3 号 NPO 法人ワネッツ旅費規定(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第 4 号 NPO 法人ワネッツ会計規則(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第 6 号 NEATR 隊員規約(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第 7 号 NPO 法人ワネッツ緊急時対応計画(制定 2020 年 12 月 27 日)
- ・ 株式会社 EPR クリエイト「事務処理委任に関する契約書」(締結 2017 年 4 月 12 日)
- ・ あいおいニッセイ同和損害保険株式会社「NPO 総合活動保険契約(締結 2018 年 8 月 25 日)
- ・ ワネッツシニアアドバイザー「ワネッツシニアアドバイザー契約」(締結 2018 年 6 月 20 日)
- ・ 公益財団法人原子力安全技術センター「原子力防災事業の実施に係る協定」(締結 2018 年 4 月 16 日)

(2)ワネッツの正会員および賛助会員の獲得

ワネッツ発足当時より、ダイレクトメール方式で新規の正会員・賛助会員の獲得を行ってきたが、2019 年以降、個人情報の保護の観点から、既存の NEATR 隊員や寄付者への勧誘しかできなくなったため、新規会員獲得数が大幅に減少した。

2022 年度は、関電退職者組織向けに勧誘パンフレット配布、労働組合への紹介依頼などの努力はするもの、減少傾向に歯止めがかからなかった。

また、2020 年度に女性会員 1 名が脱会したことにより、女性会員がゼロとなった。この件も対応する必要がある。

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体
正・賛会員数	57	9	67	9	61	9	61	9	55	10
期初めより増	18	9	11	0	0	0	2	0	0	1
期初めより減	3	0	1	0	6	0	2	0	6	0

	第6期	
	個人	団体
正・賛会員数	50	9
期初めより増	0	0
期初めより減	5	1

(4)NEATR の隊員の獲得

NEATR 隊員の高齢化に伴い、脱退が相次いだ。会員と同様、関電退職者組織向けに勧誘パンフレット配布、労働組合への紹介依頼などを行ったが、成果とはならなかった。今後、抜本的な対策を検討する必要がある。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
隊員数	139	133	129	119	117
期初めより増	15	1	3	0	2
期初めより減	14	7	7	10	4

	第6期
隊員数	109
期初めより増	0
期初めより減	8

(5)継続的な寄付収入の確保

ワネッツ設立当初から、寄付により税制面でメリットが得る認定 NPO 法人格取得、維持を目指して、その法人格取得の 1 つの条件である寄付者 3000 円以上、100 人以上を活動のアウトカム指標として、寄付金獲得活動を実施している。

2022 年度期は、前年度の繰越金が多かったこともあり、通常の手法によるアウトカム達成は非常に困難を極めたが、役員による募集努力の結果、一般から 13 名の寄付を得て、2022 年度のアウトカムを達成することができた。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
寄付者数(除役員)	120	101	106	101	102
3000 円以上	109	101	106	99	101
寄付総額(円)	1,145,517	815,900	797,000	707,000	712,955

	第6期
寄付者数(除役員)	101
3000 円以上	101
寄付総額(円)	715,118

この寄付者については、公開用名簿を小浜事務所に置いている。その中には、未使用はがきなど、物品寄贈者を正当な評価額とともに掲載している。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
寄贈者数	0	1	1	1	0
内容	—	未使用はがき	未使用はがき	未使用はがき	—
評価額(円)	0	46,837	868	2,202	0

	第6期
寄贈者数	0
内容	—
評価額(円)	0

(6)補助金等の申請

ワネッツ設立当初から財政面での安定化を目指すため、民間含め各種団体の補助金の獲得に取り組んでいる。2020 年度は麒麟福祉財団の助成金の獲得にチャレンジしたが、昨年度に引き続き成功しなかった。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
応募件数	4	2	1	1	1
応募先	福井県、エネ庁、日本財団	復興省、日本財団	福井県	麒麟福祉財団	福井県ワクワクチャレンジ
採用件数	2	0	0	0	0
補助額(円)	※ 254,000	0	0	0	0

	第6期
応募件数	1
応募先	福井県ワクワクチャレンジ
採用件数	0
補助額(円)	0

※ 有志で申し込んだものを含む

(7)コマンドシステムの導入、定着

コマンドシステムは、2017 年 2 月に㈱EPR クリエイトが開発し、それ以降、同社と「事務処理委任に関する契約」を締結し、平時、緊急時を問わず NEATR 隊員を指揮統制するツールとして使用している。このシステムは、2019 年度の試行を経て 2020 年度から、それまでのメールとホームページ貼り付け方式から動画指令方式に変更した。これは、即応性と切実性を訴え、隊員の社会貢献意識を呼び起こし実際の緊急時を含め参加率を高めるために行ったものである。

このスマホを用いた動画方式の指令システムは、調べた限りにおいて、国内国外とも例がないものであり、今後、より使いやすいものとなるよう、改善をしてゆかなければならない。

2022 年度は、8 月の NEATR 戦略本部実働演習および 11 月の 2022 年度コマンドシステム演習

でこの NEATR コマンドシステムを用いた。

(8)ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

NEATR 専用ホームページ (neatr@neatr-org.jp) は、NEATR コマンドシステム用ツールであったが、2021 年 3 月に NPO 法人ワネッツの定款など法定開示資料や寄付ページを設けるなど全面リニューアルし、「NEATR ホームページ」と改名した。その後、2021 年 12 月に、「放射線量空気の壁打破事業」において、レップツーレブキャンペーンの特設サイトを設けた。その後、ホームページの動画テキストに放射線防護テキスト（放射線、線源、線量、パスウェイ）を張り付けた。

このサイトへのアクセス回数は、ホームページ設置以降キャンペーン開始前が 4.5 回/日、キャンペーン中が 5.3 回/日であったが、2022 年度は 2.9 回/日へと低下した。これは 2022 年度の NEATR 戦略本部実働演習および NEATR コマンドシステム演習において、コマンドシステムの使用を逍遙しなかったためと推定される。

ワネッツ会報は、ワネッツ会員とワネッツとをつなぐ場として重要なものと位置づけており、2022 年度は、下記記載の機関紙とあわせて、都合 3 回発刊した。

号	発刊日	主な内容
14	2022.6.6	2021 年度 (第 5 期) NPO 法人ワネッツ 重要 第 6 回 NPO 法人ワネッツ通常総会について 他
15	2022.10.26	福井県知事に認定 NPO 申請をしました 9 月末現在の予算の執行状況について 他
16	2023.2.17	認定特定非営利活動法人ワネッツになりました 大規模事業の実施状況について 他

NEATR 機関紙は、情報共有面からの組織維持をはかるためと、隊員相互の交流の場を提供するため、会報と同じタイミングで発刊している。

号	発刊日	主な内容
17	2022.6.6	災害時の外国人支援 内容より重要なのは主語だ 活動報告 2021 年度コマンドシステム演習 他
18	2022.10.26	来月 11 月上旬、NEATR の演習、隊員の皆様のご参加をぜひお願いします 活動報告 NEATR 戦略本部実働演習 他
19	2023.2.17	3 月 25 日 (土)、総会等重要な活動を実施します。 活動報告 意外な展開が・・・2022 年度コマンドシステム演習 他

NEATR 機関紙「ウィズハート」の内容充実のため読者アンケートを過去 3 回実施してきたが、2020 年度からは、機関誌・会報に同封して総会案内(返信はがき)、活動参加案内(返信ハガキ)、会費・寄付金領収書送付等を行ってきており、経費的にはメリットが出るものの、事務処理が輻輳し機関紙アンケートまで手がまわらない状況となり、中止した。フィードバックは継続的改善に重要なため、今後の再開を目指す。

	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期
実施時期	2017 年 12 月	2018 年 12 月	2020 年 2 月	—	—
アンケート回収率	38.4%	38.0%	12.5%	中止	中止

	第6期
実施時期	—
アンケート回収率	中止

(9)ワネッツシニアアドバイザー(WSA)との連携

2018年4月、ワネッツ役員会方針に基づき外部組織が主催する研修会等のアドバイザーができる知識、技能を持つ人を集め、ワネッツシニアアドバイザー(WSA)を組織（現在 15 名）した。2018 年度に初回の原子力安全技術センターの防災基礎研修のアドバイザー派遣を実施し、2022 年度に、4 年ぶりとなる同研修へのアドバイザー派遣を実施した。

【防災基礎研修アドバイザー派遣】

年月日	派遣先	実施内容
2022年6月13日,14日	敦賀OFC	GM管測定、NaIシンチ測定
2022年6月20日,21日	サンドーム福井	GM管測定、NaIシンチ測定
2022年7月4日,5日	能登ふれあい文化センター	GM管測定、NaIシンチ測定
2022年7月6日,7日	石川県青少年研修センター	個人線量計測定、GM管測定、NaIシンチ測定

初回の派遣以降、派遣のない時期のアドバイザーの知識、技能の保持向上を目指し、メンバーやNPO 法人会員を対象に WSA ニュースレターを発行してきたが、2022 年度にアドバイザー派遣があったためこのニュースレターは 122 号で打ち切った。これに変わるものとして、NEATR ホームページに動画を掲載する「ワネッツオピニオン」を発行した。

【WSA ニュースレター】

号	発刊日	テーマ
115	2021.4.10	日本侵略のモデル
116	2022.5.3	憲法記念日に思う
117	2022.6.1	ふざけるか！ レベルの判決
118	2022.7.27	暗殺現場 もしその現場にいたなら(動画)
119	2022.8.12	津波、不思議な世界(動画)
120	2022.9.11	セキュリティクリアランス制度と個人信頼性確認(動画)
121	2022.9.23	円安はどうなる リフレ派の見方(動画)
122	2022.12.31	安全について(動画)

【ワネッツオピニオン】

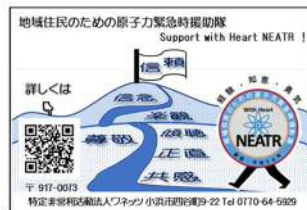
号	発刊日	テーマ
0	2022.12.31	(サンプル)容疑者は推定無罪(動画)
1	2023.1.25	原子力政策転換、国際基準の導入(動画)

以上

地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR）

2022年度

活動報告書添付資料



2023年5月28日

特定非営利活動法人 ワネッツ

NPO法人ワネッツとNEATRの関係

1

	地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)	特定非営利活動法人ワネッツ
性格	任意団体 (2016(H28)年12月17日発足) 平常時、緊急時とも実際の活動を行う	特定非営利活動法人 (2017(H29)年4月6日設立) NEATRの運営を行う
目的	リスクコミュニケーションによる地域レジリエンス強化活動	リスクコミュニケーションにより、地域の防災・減災力の向上に寄与する
参加資格	若狭地方原子力職場の退職者で若狭方面または、京阪神方面等に居住、会費等なし	制限なし 加入金、年会費が必要
義務	隊員の義務は一切なし 、加入・脱退自由	申込必要、定款に基づき権利、義務あり
現勢	隊員 109 名	正会員 35 名、賛助会員 24 名 (内法人 9)
会計	NPO法人ワネッツが実施 隊員の平常時活動は旅費規定適用、 緊急時はボランティア	法人会計規則準拠(本会計と事業会計) 収入は、会費、寄付金、事業収入等 支出は、人件費、事業支出、管理費等
会議体	NEATR戦略本部会議（平時、緊急時） (役員会規定およびNEATR規約による)	役員会(役員会規定による) 理事会(ワネッツ定款による)
構成	NEATR指令職：隊長1名(肥田善雄)、副隊長1名、班長6名(NEATRコマンドシステム適用)	理事長1名(肥田善雄)、副理事長2名、理事4名、理事・事務局長1名、監事2名 (会計規定、旅費規定等整備)

活動の特徴3 コマンドシステム

4

システムの構成

□ コールシステム

隊員のスマホ等情報端末に出動要請を出すとともに、担当するエリアとそこでのミッションを連絡するシステム。

□ コマンドウェブ

隊員にミッションの中身を示し、隊員が進捗状況を逐次入力し、完了を報告するウェブコンテンツ。

・ICSフォームおよびミッションシート

ICSフォームおよびミッションシートは動画で直接指令する

・応答チェックボックス

ウェブコンテンツに含まれる進捗状況入力用の枠。

□ ハード構成

パソコンまたはサーバー：2台、インターネット回線：2回線、メール機能およびウェブ閲覧機能のある情報端末：必要数

NEATRコマンドシステム概念図



2021年度 NEATRの活動実績

5

区分	活動項目	実施日	参加(外部)	新聞等報道	
① R運営事業	2022年度コマンドシステム演習	2022.11.5(土) 2022.11.6(日)	23名 (95名)	1	6
② 隊員等研修事業	災害時外国人支援実働演習	2021.5.28(土)	4名 (9名)	1	7
	NEATR戦略本部運営演習	2022.8.21(日) 2022.8.27(土),28(日)	18名 (8名)	1	10
③ ツール開発等事業	311特別企画事業	2023.3.25(土)	9名 (4名)	—	12
	NEATR戦略本部運営技術開発事業	2022.2～2023.3	10名 (0名)	—	13
④ 知識普及事業	2022年度若狭湾エネ研受託研修事業	2022.12～2023.1 (2023.1.24(火))	4名 (10名)	—	14
	防災基礎研修事業	2022.6～2022.7	24名 (120名)	—	15
	放射線空気の壁打破事業(継続)	2020.6～(継続)	12名 (20名)	—	16
⑤ 関連事業	アウトリーチワークショップ	2022.6～(継続)	10名 (0名)	—	17
	災害時実働団体支援事業(ウクライナ支援)	2022.5～2022.12	23名 (0名)	—	18

2022年度コマンドシステム演習（その1）

6

1. 日時 MS6 2022年11月5日(土) 11:00～16:00
MS8 2022年11月6日(日) 08:30～1300
2. 場所 NS6 大飯中学校体育館および美浜町はあとびあ
MS8 美浜町佐田地区および美浜町あはとびあ
3. 目的
2022年度NPO法人ワネッツ活動方針に基づき、立地町との顔の見える関係を構築するとともに、コマンドシステムの継続的改善に資する。

4. 実施内容

大飯中学校体育館での訓練避難者対象の「よくわかる放射線ブース」の設置運営および美浜町佐田地区の訓練屋内避難者対象の「お困りごとお聞きします」の実施（詳細次ページ）

5. 評価(事実と教訓)

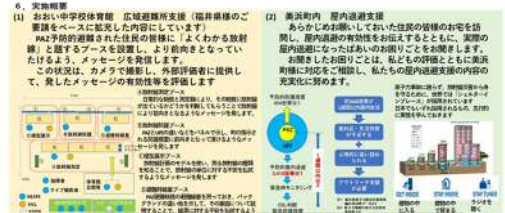
- ・ 福井県等による事前の訓練計画の発表がなかったことにより、参加者募集が遅れ、かつ募集はがきの返信が少なかった。参加者募集は工夫して早くすべき
- ・ 国際基準をベースとしたモデル等があまり使われなかったため、内部で「リスク防護」の考え方等を普及する
- ・ 録画ビデオで外部評価者に評価してもらう予定であったが、評価に耐えうるビデオとならなかったため、撮影機材の最適化や撮影体制の強化を図っていく必要がある。

10/ 4(金) 県危機対策防災課より「避難所でブース設置」との要請
10/16(日) 第4回役員会 2022年度コマンドシステム演習事業設定
10/17(月) 美浜町との打ち合わせ(申し入れ)
10/20(水) NEATR隊員へ参加要請レター発信
10/22(土) 隊員用レクビデオ撮影
10/23(日) 第5回役員会 2022年度コマンドシステム演習実施計画承認
10/25(火) 美浜町長との面談(申し入れ)、おい町との打ち合わせ
10/26(水) レンタル機材調達開始
10/29(土) 参加者不足の「緊急事態」に陥る、以降個別勧誘実施
10/31(月) 避難経路線量測定(美浜町丹生～おい町野尻)
11/ 2(水) 参加者用内容レクビデオ放映(ライブ+録画)
11/ 3(木) ブース設置機材準備、参加者用内容レクビデオ放映
11/ 4(金) おおい町長との面談(申し入れ)
(最終的に福井県より公式発表なし)
11/ 5(土) MS6「よくわかる放射線ブース」実施
11/ 6(日) MS8「お困りごとお聞きします」実施
11/15(火) 福井県危機対策防災課への実施結果説明
11/14(木) 美浜町への結果報告説明
11/14(木) 規制庁への意見書の提出(後に撤回)

実績スケジュール

2022年度NEATRコマンドシステム演習の概要
(令和4年度 国、福井県、美浜町等原子力総合防災訓練) 2022年10月25日 NPO法人ワネッツ

1. 日時 2022年11月5日(土) 11:00～17:00
11月6日(日) 08:30～13:00
2. 場所 11/5 おおい中学校体育館 広域避難所支援
11/6 美浜町内 屋内避難支援
11/6 NEATR隊本部 美浜町はあとびあ
3. 目的 避難等されている美浜町民の皆様に伝える
リスクコミュニケーション上のメッセージ
4. 参加者(予定)
11/5 NEATR隊員10名、在留外国人ボランティア3名、外部評価者 2名
11/6 NEATR隊員 8名
11/6 14名 在宅避難者 30名



美浜町長およびおい町長事前説明資料

総支出	41,140,410円	内評価支出	616,100円
-----	-------------	-------	----------

2022年度コマンドシステム演習（その2）

7

【MS6 広域避難所支援 よくわかる放射線ブースの設置、運営】

2022年11月5日(土) 11:00～16:00

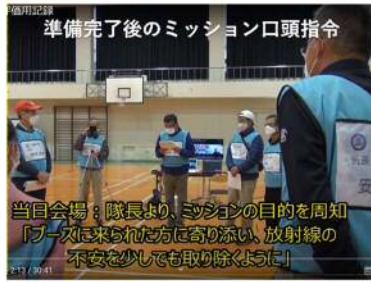
NEATR 12名、在留外国人 3名、住民ブース訪問 10名、視察者ブース訪問 20名
(他に住民約50名、おい町職員約10名) 合計100名

ダイジェスト版(動画)はこちら

URL
<https://youtu.be/CxIzvh4R5E>



準備中（：ネットワーク構築）



当日会場：隊長より、ミッションの目的を周知
「ブースに来た方ばかりに寄り添い、放射線の不安を少しでも取り除くように」



ミッション実施中
放射線測定ブース



小林副大臣来訪



小林副大臣リモートでNEATR本部と



終了後AAR(アフターアクションレビュー)

2022年度コマンドシステム演習（その3）

8

【MS8 屋内退避支援 お困りごとお聞きます】
2022年11月6日(日) 08:30~1300

NEATR 11名、在留外国人 1名、住民 4名 合計16名

ダイジェスト版(動画)はこちら

URL : <https://youtu.be/vw6ERJWf2c>



ミッション動画指令



参集後訪問先・分担等説明



リーダー説明(撤退線量)



ミッション出発



ミッション実施中



終了後AAR(アフターアクションレビュー)

災害時外国人支援実働演習

9



開会・理事長あいさつ



放射線測定実演



水防訓練見学(まずはVoiceTra操作を)



ジェスチャーゲーム(残念正解なし)



翻訳トーク(記者も熱心に)



テキストトーク(パソコン打ち早い)

総支出 209,908円 内評価支出 135,500円

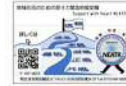
1. 日時 2022年5月27日(土)
18:30~19:40
2. 場所 小浜市食文化館
参加者 NEATR6名、在留外国人3名
3. 目的
実際の原子力災害時に、何をすれば外国人の支援が受けられるかを確認する。
4. 実施内容
在留外国人と、ジェスチャー、翻訳器およびテキストによる意思伝達を実験的に行う。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ ジェスチャーは双方の意思伝達に有効な手段である。
 - ・ 翻訳機を使った場合は、日本語に主語が入らないため、外国人に意思が伝わりにくい。
 - ・ 和文の非論理的なイメージテキスト文の翻訳は、直訳ではまず伝わらない。

NEATR戦略本部運営演習（その1）

10

- 日時 公開審査会 2022年7月16日(土)
事前説明会 2022年8月21日(日)
本部演習 2022年8月27日(土)、28日(日) 10～13時
- 場所 福井県国際交流センター、敦賀市あいあいプラザ
- 目的
NEATR戦略本部の実践的演習を行うとともに、災害時に学生や外国人からの支援の可能性を探る。
- 実施内容
(1)福井県ワクチャレへの応募、ボランティア体験への参加
(2)本部演習参加学生等への事前説明
(3)戦略本部実働演習(NEATR隊員は在宅演習)

誰にでもできる
原子力災害時の住民支援プロジェクト



2022年7月16日(土)
特定非営利活動法人ワネッツ

ワクチャレ発表資料

- 評価(事実と教訓)
 - ワクチャレは不採用、ボランティアは申込なし、よって事前説明会は自前で実施
 - 演習に来ていただいた在留外国人とは、チャンネルができたため、今後、そのチャンネルを生かす必要がある。
 - 演習そのものは、力点が外国人支援可能性調査にいたため、NEATR隊員の在宅応答は低調となった。このことは少し考えなければならない



外国人募集パンフ



ワクチャレ審査会風景

総支出 328,000円 内評価支出 325,000円

NEATR戦略本部運営演習（その2）

11

【MS0 NEATR戦略本部運営演習】 敦賀市あいあいプラザ
2022年8月27日(土)、8月28日(日) 10:00～1300

NEATR 10名、学生・外国人等 6名

ダイジェスト版(動画)はこちら



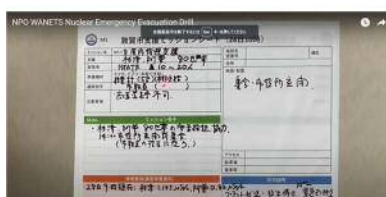
演習開始宣言



リエゾンからの報告(事前情報なし)



動画指令の発信



動画指令のミッションシート



演習で使ったCOP



演習で使ったモニタポスト値

311特別企画事業

12



開会・隊長あいさつ



美浜発電所長ご講演



シニアアドバイザーご講演

各所への意見提起内容

総支出 323,620円 内評価支出 206,400円

1. 日時 2023年3月25日(土) 11:30～17:00
2. 場所 関西電力㈱美浜発電所PRセンターおよび構内
3. 目的
「若狭の地で東電福島事故のような悲惨な住民避難を起こさせない」を再確認するために、3月11日近傍で行う。
4. 実施内容
現職との意見交換、美浜発電所構内の見学、美浜発電所長のご講演、原子力学会原子力シニアアドバイザーのご講演を行った。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 参加者が目標20人に対し実績9人となった。従来と遜色ないが、参加人数の目標未達は現実的な問題としてとらまえる必要がある
 - ・ アンケート評価点は4.4点(5点満点)と高く、外部講師による講演の評価が現場見学よりも評価が良い。相乗効果現場で実施したことの相乗効果と考えられる。
 - ・ 次年度の継続を望む回答が多かった。アンケートでいただいたご意見を評価し、次年度にも同種事業を取り組むこととする。

NEATR戦略本部運営技術開発事業

13

1. 日時 2022年3月 ～ 2023年3月
2. 場所 ワネッツ小浜事務所、各指令職自宅
3. 目的
NEATRの活動は戦略本部で計画・実施・評価するため、その運営技術を開発する。
4. 実施内容
NEATR戦略本部の活動に資するため、ウクライナ戦争を題材に戦略について学ぶとともに、既存または新規のリスクモデルの有効な活用手法の技術を開発する。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 戦略にも事前の準備が必要である。ウクライナ戦争では大統領を守るという目標に対して事前に「私も戦う」という国防意識を高める戦略が立てられていた。
 - ・ リーダーが直接発するメッセージは極めて有効である。ウクライナでは「私はキーウにいる。大臣もいる」というSNSメッセージ、各国国会へのビデオメッセージが、国際的なウクライナ支援を可能にした。
 - ・ 事前の戦略準備とSNSリーダーメッセージの具体的内容は今後検討する必要がある。

マネジメント Management	導入後、都度の事業で開発(システム改善)を実施
リスク Risk	パスウェイモデル等のリスクモデル開発を実施
ストラテジー Strategy	今回実施
コミュニケーション communication	三つのリスクコミュニケーション技術開発を実施
アセスメント assessment	若狭湾エネ研究託研修事業でアセスメント技術開発を実施

世界の福島事故教訓の用語分析と技術開発

目的(ワネッツ定款)

目標(活動のゴール)

戦略

いつ、どこで、何を、
誰と、どのように

戦術(リスクモデル)

利用可能な最善の情報
人的な資源(能力、技術)
文化的な要素(立場、態度)

技術開発の位置づけ

総支出 124,000円 内評価支出 120,000円

2022年度若狭湾エネ研受託研修事業

14

1. 日時 2023年1月24日(火) 9:00～17:00
2. 場所 福井県若狭湾エネルギー研修センター
3. 目的
若狭湾エネ研との「原子力発電所従事者の放射線防護研修」契約書に基づき、受託研修事業を実施する。
4. 実施内容
昨年度教訓を踏まえ、アセスメント実習の簡略化をはかり、基礎要素の動画説明を交えた研修を実施する。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 受講者評価点が過去最低となった。テキストに動画のサムネイルをつけていたが、主にはそれが読めないという理由であった。
 - ・ 動画再生の最中にそれを見ていない人がいたし、前方のスクリーンを見ずにテキストを読んでいた人がいた。しかし、テキストにないことをホワイトボードに書くと、それには注視をしていた。
 - ・ このため、動画テキストをやめ、テキストに引き付けるようなトピックスを挿入していく。

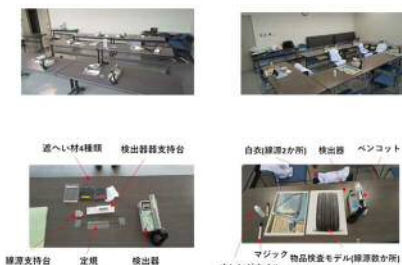


研修風景

総支出 225694円 内評価支出 119800円

防災基礎研修事業

15



Nalシンチの実習配置

GM管の実習配置

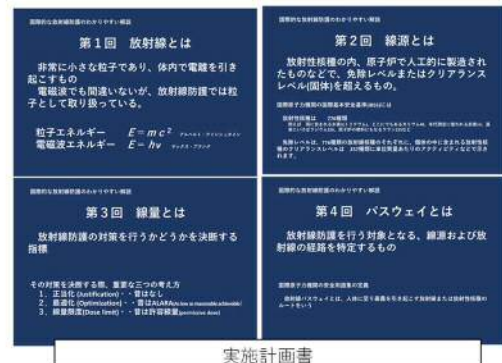
1. 日時/場所 2022年6月13日、14日 敦賀オフサイトセンター
2022年6月20日、21日 鯖江サンドーム福井
2022年7月4日、5日 能登ふれあい文化センター
2022年7月6日、7日 石川県青少年研修センター
2. 目的
原子力安全技術センターと締結した「原子力防災事業の実施に関する協定書」に基づき、原子力防災基礎研修にアドバイザーを派遣する。
4. 実施内容
個人線量計、GM管およびNalシンチの取り扱いに関する受講者へのアドバイス。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ AARを実施した結果、会場管理者との事前調整、終了後現状未復帰の問題、受講者へ迷惑をかけた発言、白衣につけた線源の未回収の問題、バリウム線源の分配などが記録された。
 - ・ これらの対策については、次回の防災基礎研修の派遣アドバイザー事前説明会で説明する
 - ・ バス運転手対象の応用研修のアドバイザーが派遣が可能か打診があったが、住民が防護服を着ていないのにアドバイザーとして運転手には着るということができないとして断った

総支出 667,773円 内評価支出 196,000円

放射線空気の壁打破事業（継続中） （レップツーレブキャンペーン）

16

1. 日時 2020年6月～（継続中）
2. 場所 ワネッツ小浜事務所および各指令職自宅
3. 目的
社会的な原子力安全を構成する一員として、放射線量の単位に関して社会インパクトを与えることで、集団的放射能不安心理という空気を打破することを目指す。
4. 実施内容
計量法改正にかかるロビーイングを継続するとともに、動画作成やUNSCEAR、ATENAへの意見提起等を行った。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ロビーイングは相手側都合により進んでいないが、努力する必要がある。
 - ・動画はNEATRホームページに張り付けたが閲覧回数は低調なままであった。コンテンツの出来具合がよくない可能性がある
 - ・関係機関意見提起は、各種パブリックコメントへの意見提起を含め実施してきている。一定の効果があると判断しており、今後とも継続する。



アウトリーチワークショップ

17

2022年度 NPO法人ワネッツ
と NEATR 関係者研修事業

アウトリーチワークショップ 実施計画(案) (R0)

実施目的

NPO法人ワネッツの定款で定め
たリスクコミュニケーションにつ
いて、NEATR関係者の基本技
能を高め、地域住民との顔の
見える関係の構築に資する。

- ・ NPO法人ワネッツの定款で定め
たリスクコミュニケーションにつ
いて、NEATR関係者の基本技
能を高め、地域住民との顔の
見える関係の構築に資する。

実施計画書



放射線の単位で、正確に1時間ほど
実際に放射線を当ててみて、そして
放射線が「何」かわかる。

NPO法人ワネッツによる放射線測定器普及啓発の例



配布用パンフレット

総支出	24,340円	内評価支出	22,600円
-----	---------	-------	---------

1. 日時 2022年11月～（継続中）
2. 場所 ワネッツ小浜事務所
3. 目的
放射線測定器の備えてある機関(約100か所)に出向き、放射線測定ワークショップを行うことで、関係者との顔の見える関係の構築に資する
4. 実施内容
福井県への提案して、関係機関へ紹介していただいたうえで、現地に備えてある放射線測定器を用いてワークショップを行う。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・「防災基礎研修」に参加された福井県の方が、同研修に高い評価を与えていただいたため、同じような研修の仲介を申し入れた。現時点では回答がない
 - ・しかし、2022年度コマンドシステム研修で、福井県より県防災訓練広域避難所の放射線ブースの設置を要請されたため、次回の福井県訓練に備えて、体制等準備する必要がある
 - ・実施個所数が多いため、準備にあたっては体制を組む必要がある。

災害時実働団体支援事業（ウクライナ支援）

18

1. 日時 2022年5月～12月
2. 場所 ワネッツ小浜事務所および活動実施場所
3. 目的
役員会決定に基づき、前年度収支剰余がある場合に災害時実働団体支援を行う。
4. 実施内容
 - ・活動時におけるウクライナ募金箱の設置
 - ・ウクライナ支援を目的とした寄付募集の実施
5. 評価(事実と教訓)
 - ・募金箱で集まった9,742円に役員会決定に基づく3万円を追加し、日本財団ウクライナ支援に寄付した。(2022年9月12日)
 - ・募金箱および寄付募集で集まった67,376円をそのまま世界食糧計画(WFP)日本事務所のウクライナ緊急支援に寄付した。(2022年12月27日)
 - ・もともとは災害時外国人支援実働演習で、ウクライナ人が参加される予定であったため、募金活動を実施した。



活動時の募金箱



日本財団領収書

WFP日本事務所領収書

総支出	122872円	内評価支出	5000円
-----	---------	-------	-------